

授業科目	看護学概論	担当講師	専任教員
開講年次	1年次	単位数・時間数	1単位・30時間
科目目標	看護の基本となる概念、看護の機能・役割を学び、専門職業人としての倫理的態度を養う。		
使用テキスト	ナーシング・グラフィカ「看護学概論」メディカ出版		
評価方法	筆記試験、課題への取り組みと課題提出により総合的に評価する。		
単元	時間数	学習内容	備考
1. 看護の責務と専門職としての看護	4	<ul style="list-style-type: none"> 1 看護とは 2 看護の責務 3 看護実践のための責務 	
2. 看護を構成する主要概念	12	<ul style="list-style-type: none"> 1 看護とは何かを考える <ul style="list-style-type: none"> 1) グループワークとは 2) グループワークの進め方 3) グループワークで理解する言葉 人間・環境・社会・環境・倫理 援助・臨床・学習 など 2 看護を構成する主要概念の理解 <ul style="list-style-type: none"> 1) 人間とは 2) 環境とは 3) 健康とは 4) 看護とは 3 看護におけるチームアプローチ <ul style="list-style-type: none"> 1) 保健・医療・福祉とは 2) チームアプローチとは 3) 他職種を理解 	演習
3. 看護の倫理	8	<ul style="list-style-type: none"> 1 看護倫理とは 2 看護倫理に関する基礎知識 3 倫理的意思決定 4 看護者の倫理綱領 5 事例をもとに看護倫理を考える 	演習
4. 看護理論	6	<ul style="list-style-type: none"> 1 看護理論とは 2 看護理論の分類 3 主な理論家とその理論 	

授業科目	基本看護技術 I	担当講師	専任教員
開講年次	1年次	単位数・時間数	1単位・30時間
科目目標	看護技術の特徴と効果的な方法や手段を学ぶ。 看護における感染予防と医療事故予防の基礎的知識を身につけ、予防技術を習得する。		
使用テキスト	新体系看護学全書「基礎看護技術 I」メヂカルフレンド社 「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」医学書院		
評価方法	試験、レポートにより総合的に評価する。		
単元	時間数	学習内容	備考
1. 看護の目的を実現するための技術	2	1 看護技術の特徴 2 看護技術実践のための要素 3 看護の技能と技術 4 看護技術における倫理的側面	
2. 看護の技術の基本となる姿勢	2	1 身体運動と姿勢 2 ボディメカニクス技術の基本 1) 安定した作業姿勢 2) 重心と動作に適した筋群の使用 3) 支持基底面積 4) てこの原理	
3. 感染予防の基礎的知識と感染予防策	8	1 感染の定義と成立の条件 2 感染防止対策 1) スタンダードプリコーション 2) 接触感染予防策 3) 飛沫感染予防策 4) 空気感染予防策 3 手指衛生、ガウンテクニック	事前学習ノートの提出 校内実習
4. 洗浄・消毒・滅菌と滅菌物の取り扱い	6	1 洗浄・消毒・滅菌 1) 洗浄の種類 2) 消毒の種類と適応 3) 滅菌の種類と滅菌物の取り扱い 2 無菌操作	事前学習ノートの提出 校内実習
5. 医療施設における感染管理	2	1 組織で取り組む感染防止 2 感染性廃棄物の取り扱い 3 汚染物の取り扱いと環境整備	
6. 看護における医療事故と背景	4	1 医療安全の概念 2 看護事故の種類と背景 3 事故を防ぐ医療者間のコミュニケーション 4 情報の伝達・共有・管理	動画視聴・演習

<p>7. 看護学生に起こりやすい事故の発生要因と対策</p>	<p>6</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 実習における事故の法的責任 2 実習中の事故 <ol style="list-style-type: none"> 1) 事故予防 2) 事故発生時の対応 3 事故報告とヒヤリハットレポート 4 実習場面で起こりやすい事故と予防策 	<p>動画視聴・演習</p> <p>演習</p> <p>演習</p>
---------------------------------	----------	---	------------------------------------

授業科目	基本看護技術Ⅱ	担当講師	専任教員
開講年次	1年次	単位数・時間数	1単位・30時間
科目目標	看護におけるコミュニケーション及び指導の意義と方法を学び、基本的技術を習得する。		
使用テキスト	新体系看護学全書「基礎看護技術Ⅰ」メヂカルフレンド社		
評価方法	試験、レポートにより総合的に評価する。		
単元	時間数	学習内容	備考
1. コミュニケーションとは	6	1 看護・医療におけるコミュニケーションの重要性 2 コミュニケーションとは	講義
2. 対象を理解する技術	8	1 「質問する」技術 2 「話す」技 3 アサーション技術 4 「話を聞く」技術	演習
3. プロセスレコード	1	1 プロセスレコードとは 2 プロセスレコードの記述・評価方法 3 プロセスレコードの実際	演習
4. 教育指導技術	8	1 看護における患者教育 2 指導技術の基本となるもの 3 指導の対象者と領域 4. 指導の進め方	グループワーク 演習
5. 臨床におけるコミュニケーション	6	1 信頼関係の基本であるコミュニケーション 2 看護師－患者関係 3 臨床に活かすコミュニケーション技術	演習
	1	評価	技術テスト

授業科目	基本看護技術Ⅲ	担当講師	専任教員
開講年次	1年次	単位数・時間数	1単位・30時間
科目目標	看護における観察の意義と方法を学び、基礎的技術を習得する。 看護記録の目的と記載・管理における留意点を理解する。 看護における報告の意義、方法を理解する。		
使用テキスト	新体系看護学全書「基礎看護技術Ⅰ」メヂカルフレンド社 「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」医学書院		
評価方法	試験、レポートにより総合的に評価する。		
単元	時間数	学習内容	備考
1. 観察	4	1 観察とは 2 観察の目的・方法 3 観察の視点 4 観察の手段	校内実習
2. バイタルサイン	4	1 バイタルサインの意義 2 バイタルサインの変動因子と個体差	
3. バイタルサインの観察方法とアセスメント	12	1 体温 2 脈拍 3 呼吸 4 血圧 5 意識	
4. 看護記録	6	看護記録の意義と目的 看護記録の種類・構成 看護記録の原則 記録の管理 看護記録の実際	
5. 報告	4	看護における報告の意義 報告の方法	

授業科目	生活援助技術 I	担当講師	専任教員
開講年次	1年次	単位数・時間数	1単位・30時間
科目目標	療養の場における環境の意義を学び、援助技術を習得する。 活動と休息の意義を学び、活動と休息の援助技術を習得する。		
使用テキスト	新体系看護学全書「基礎看護技術Ⅱ」メヂカルフレンド社 「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」医学書院		
評価方法	試験、レポートにより総合的に評価する。		
単元	時間数	学習内容	備考
1. 療養生活の環境	2	1 人と環境 2 療養生活と環境	
2. 病室の環境のアセスメントと調整	4	1 病室・病床の選択 2 温度・湿度 3 光・音 4 色彩 5 空気の清浄性とにおい 6 人的環境	
3. 療養環境と援助技術	10	1 ベッドメイキング 2 リネン交換 3 環境整備	校内実習 校内実習 校内実習
4. 活動の援助	10	1 基本的活動の基礎知識 1) 活動の意義と種類 2) 良肢位 2 基本体位、特殊体位 3 同一体位による弊害とその防止策 4 不活動状態による弊害とその防止策 5 移動 1) 体位変換 2) 補助用具を使った移動の援助方法 ①歩行介助 ②移乗・移送	校内実習 校内実習 校内実習
5. 睡眠・休息の援助	4	1 睡眠に関する基礎知識 1) 睡眠の生理 2) 睡眠障害 2 良質の睡眠をとるための援助方法	

授業科目	生活援助技術Ⅱ	担当講師	専任教員
開講年次	1年次	単位数・時間数	1単位・30時間
科目目標	清潔・衣生活の意義を学び、清潔・衣生活の援助技術を習得する。		
使用テキスト	新体系看護学全書「基礎看護技術Ⅱ」メヂカルフレンド社 「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」医学書院		
評価方法	試験、レポートにより総合的に評価する。		
単元	時間数	学習内容	備考
1. 清潔の援助	28	1 清潔の援助の基礎知識 1) 清潔の意義 2) 皮膚・粘膜の構造・機能 3) 口腔内の構造と機能 4) 清潔援助の留意点 2 清潔の援助の実際 1) 入浴・シャワー浴 2) 手浴・足浴 3) 全身清拭 4) 病衣・寝衣の交換 5) 洗髪 6) 整容 7) 口腔ケア 8) 陰部洗浄	校内実習
2. 病床での衣生活の援助	2	1 衣生活の援助の基礎知識 1) 意義 2) 病衣の選び方 2 衣生活の援助の実際	

授業科目	生活援助技術Ⅲ	担当講師	専任教員
開講年次	1年次	単位数・時間数	1単位・15時間
科目目標	食事の意義を学び、食事の援助技術を習得する。		
使用テキスト	新体系看護学全書「基礎看護技術Ⅱ」メヂカルフレンド社 「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」医学書院		
評価方法	試験、レポートにより総合的に評価する。		
単元	時間数	学習内容	備考
1. 食事援助の基礎知識	4	1 食事・栄養摂取の意義とそのしくみと働き 2 食事・栄養摂取のアセスメント 1) 栄養状態 2) 食事の摂取内容 3) 水分の摂取と排泄 4) 食事の質、食習慣 5) 食事動作 6) 食事を妨げる要因	
2. 食事摂取の介助	4	1 患者への食事の援助 1) 医療施設で提供される食事 2) 経口摂取できる患者の食事介助 3) 治療食と食生活の指導	校内実習
3. 非経口的栄養摂取の援助	6	1 経管栄養 1) 経腸栄養とは 2) 経鼻胃チューブによる栄養摂取の援助 3) 胃瘻による栄養摂取の援助 4) 腸瘻による栄養摂取の援助	校内実習
	1	試験	

授業科目	生活援助技術Ⅳ	担当講師	専任教員
開講年次	1年次	単位数・時間数	1単位・20時間
科目目標	排泄の意義を学び、排泄の援助技術を習得する。		
使用テキスト	新体系看護学全書「基礎看護技術Ⅱ」メヂカルフレンド社 「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」医学書院		
評価方法	試験、レポートにより総合的に評価する。		
単元	時間数	学習内容	備考
1. 自然排泄の基礎知識	4	1 排泄の意義とそのしくみと働き 2 排泄のアセスメント	
2. 自然排泄の介助	4	1 排泄の援助 1) トイレを使用した排泄の援助 2) ポータブルトイレを使用した排泄の援助 3) 便器・尿器を使用した排泄の援助 4) おむつ交換	校内実習
3. 排泄を促す援助	12	1 排便障害のある患者の援助 1) 便秘 2) 下痢 3) 便失禁 2 排尿障害のある患者の援助 1) 頻尿と尿失禁 2) 排尿困難と尿閉 3 排泄に関する処置 1) 浣腸 2) 摘便 3) ストーマケア 4) 一時的導尿 5) 持続的排尿	校内実習

授業科目	フィジカルアセスメント	担当講師	専任教員
開講年次	1年次	単位数・時間数	1単位・30時間
科目目標	フィジカルアセスメントの方法を理解する。 フィジカルアセスメントを受ける対象の思いに気づきを示す。		
使用テキスト	新体系看護学全書「基礎看護技術Ⅰ」メヂカルフレンド社 「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」医学書院		
評価方法	試験、レポートにより総合的に評価する。		
単元	時間数	学習内容	備考
1. フィジカルアセスメント	6	1 フィジカルアセスメントの意義 2 フィジカルアセスメントに必要な技術 1) 問診 2) フィジカルイグザミネーション (1) 視診法 (2) 触診法 (3) 聴診法 (4) 打診法 3) 身体計測 4) 関節可動域 5) 筋力測定	
2. 系統別フィジカルアセスメント	18	1 フィジカルアセスメントを用いた臨床判断 1) 呼吸器系のアセスメント 2) 循環器系のアセスメント 3) 消化器のアセスメント 4) 感覚・脳神経のアセスメント	校内実習
3. 総合アセスメント	6	1 複合事例展開演習	校内演習

授業科目	症状別看護	担当講師	専任教員
開講年次	2年次	単位数・時間数	1単位・15時間
科目目標	主要症状のある患者のアセスメントと看護を理解する。		
使用テキスト	ナーシング・グラフィカ「病態生理学」メディカ出版 根拠と事故防止からみた「基礎・臨床看護技術」医学書院		
評価方法	試験、レポートにより総合的に評価する。		
単元	時間数	学習内容	備考
1. 身体の不調と症状・徴候	2	1 症状・徴候とは 2 疾病・病態と症状・徴候の関係	
2. 各症状における看護	1 2	1 各症状のメカニズムとアセスメント 2 各症状における看護 1) 発熱 2) 呼吸困難 3) 悪心・嘔吐 4) 浮腫 5) 痛み 6) 麻痺	演習 校内実習 罨法(温・冷)
	1	試験	

授業科目	診療補助技術Ⅰ	担当講師	専任教員
開講年次	1年次	単位数・時間数	1単位・30時間
科目目標	呼吸障害・循環障害がある患者の診療補助技術を習得し、それらの処置を受ける患者の看護を理解する。		
使用テキスト	新体系看護学全書「基礎看護技術Ⅱ」メヂカルフレンド社 「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」医学書院		
評価方法	試験、レポートにより総合的に評価する。		
単元	時間数	学習内容	備考
1. 呼吸を整える技術	17	1 呼吸の意義とアセスメント 2 呼吸を楽にする姿勢・呼吸法 3 気道分泌物の排出の援助 4 酸素吸入療法 5 胸腔ドレナージ 6 人工呼吸療法	校内実習
2. 循環を整える技術	13	1 循環障害のある対象への診療補助技術 1) 12誘導心電図 2) 止血法 3) BLS (一時救命処置) 4) AED・直流除細動	校内実習 校内実習

授業科目	診療補助技術Ⅱ	担当講師	専任教員
開講年次	2年次	単位数・時間数	1単位・30時間
科目目標	検査・治療処置を受ける患者の看護を理解する。		
使用テキスト	新体系看護学全書「基礎看護技術Ⅱ」メヂカルフレンド社 「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」医学書院		
評価方法	試験、レポートにより総合的に評価する。		
単元	時間数	学習内容	備考
1. 与薬の基礎知識	2	1 薬物療法の基本的性質 1) 剤形と与薬方法 2) 薬物動態 2 看護師の役割 1) 正しい与薬 2) 薬の管理	
2. 与薬の援助技術	18	1 援助の基礎知識と実際 1) 経口的与薬法 2) 座薬挿入法 3) 経皮的与薬法 4) 点眼・点鼻・点耳 5) 吸入法 6) 皮下注射法 7) 皮内注射法 8) 筋肉内注射法 9) 静脈内注射法 10) 点滴静脈内注射法 (1) 末梢静脈 (2) 中心静脈 11) 輸液ポンプの取り扱い	校内実習 校内実習 校内実習 校内実習 校内実習
3. 検体検査	8	1 血液検査 1) 静脈血採血 2) 血糖測定 2 尿・便検査 1) 尿試験紙検査法	校内実習 校内実習
4. 輸血管理	2	1 援助の基礎知識 1) 輸血の種類 2) 輸血の管理 3) 輸血の副作用 2 援助の実際	

授業科目	臨床的思考	担当講師	専任教員
開講年次	2年次	単位数・時間数	1単位・30時間
科目目標	看護を科学的に提供するための思考過程を学び、アセスメント、問題の抽出、計画立案、実施、評価の展開方法が理解できる。		
使用テキスト	新体系看護学全書「基礎看護技術Ⅰ」メヂカルフレンド社 「看護診断ハンドブック」医学書院		
評価方法	試験、課題への取り組みと課題提出により総合的に評価する。		
単元	時間数	学習内容	備考
1. 臨床的思考と看護過程	2	1 臨床的思考とは 2 臨床的思考と看護過程	基礎看護学実習Ⅰの気づきから広げる
2. 情報収集	4	1 情報とは 2 情報収集 3 ゴードンの枠組みを用いた情報の整理	
3. 情報の解釈	4	1 情報の解釈 2 看護問題の抽出	
4. 事例を通じたアセスメントの実際(演習)	8	1 電子カルテからの情報収集 2 情報の解釈 3 看護問題の抽出	演習
5. 優先順位の考え方	1	1 優先順位の判断基準 2 優先順位の検討(演習)	演習
6. 看護計画	3	1 目標の設定 2 具体策の立案 3 目標の設定、具体策の立案(演習)	演習
7. 実施	4	1 実施前の確認と判断 2 援助計画の実施 3 実施後の報告、記録 1) 報告のポイント 2) 実施記録 (1) SOAP記録の書き方 (2) 記録の実際(演習)	演習 実施場面のロールプレイ
8. 評価	2	1 評価の視点 2 評価の実際 3 計画の追加・修正	
9. 看護記録	2	1 看護記録の目的と意義 2 看護記録の取り扱い	

授業科目	チーム医療	担当講師	専任教員
開講年次	2年次	単位数・時間数	1単位・15時間
科目目標	チーム医療の概念やチーム医療に携わる専門職の役割・機能を学び、多職種連携のあり方を理解する。		
使用テキスト	配布資料		
評価方法	課題への取り組み、課題提出により総合的に評価する。		
単元	時間数	学習内容	備考
1. チーム医療とは	4	1 チーム医療を考える (演習) 2 チーム医療とは 3 チーム医療が重視される背景 4 チーム医療とコミュニケーション	演習 講義
2. チーム医療を構成する専門職とその役割	2	1 チーム医療を構成する専門職とその役割 2 主な医療チーム	講義
3. チーム医療演習	4	1 グループワーク ①看護師の役割は何か、看護師の専門性とは ②症例の患者理解 ③症例患者にどうなってほしいか (目標) ④目標達成に向けて、症例患者への必要な情報・援助 ⑤連携・協働するために大切なこと 2 発表 3 参加の専門職からの講評	演習 専門職 (管理栄養士・作業療法士・言語聴覚士・医療ソーシャルワーカー) を交えたワーク
4. チームカンファレンス	4	1 カンファレンスとは 2 多職種によるチームカンファレンス 3 看護におけるカンファレンス 4 カンファレンスの実際 カンファレンス実施グループと観察グループに分かれ、実施後フィードバックする	講義 演習
	1	試験	